

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 2

ア 定員充足の見込み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 2

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要・・・・・・・・ p 2

② 学生確保に向けた具体的な取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・ p 3

(2) 人材需要の動向等社会の要請・・・・・・・・・・・・・・・・ p 3

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的・・・・・・・・ p 3

② ①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの  
客観的な根拠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 4

## **(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況**

### **①学生の確保の見通し**

#### **(ア) 定員充足の見込み**

今回、本学部では数学科を除く実験系3学科の入学定員を、各学科50名から、物理学科48名、化学科54名、生命科学科48名へと変更するが、3学科を合計した入学定員数は150名であり、これまでと変更はない。

当該3学科の総入学定員数に対する専任教員数比（以下、教員数比という）は、入学定員数150名に対して、専任教員数の合計は25名であり、6.0となっているが、定員変更前の学科ごとの教員数比は、物理学科6.25、化学科5.55、生命科学科6.25であり、学科ごとに異なる状況となっていた。今回、3学科の入学定員変更を行うことにより、各学科ごとの教員数比の格差を是正し、いずれの学科も教員数比が6.0となるように変更することを決定した。これは、これまで理学部で行ってきた少人数制教育の質を確保できるように設定したものである。

これまでに本学部に入学者が、卒業後企業での研究開発活動や生産現場において活躍し、また中・高等学校の理科、数学の教員として、あるいは、大学院に進学した後に研究機関の研究者や大学の教員として活躍しているケースもある。このように、本学部が行っている少人数制教育の成果が、本学部卒業生の社会での活躍として表れている。また、資料1に示したように、平成23年度以降、年により増減はあるが、平均として本学部収容定員の8倍から10倍程度の人数の受験者を確保できているため、今回、各学科の入学定員を変更しても、本学部の教育方針に賛同し入学を希望してくる学生について、本学部での教育に必要な学力を有する学生を選抜できるための受験者数は確保できると見込んでいる。以上から、本学部で設定した学部全体の収容定員210名を今後においても満たすことができると判断する。

#### **(イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要**

平成23年度以降、本学部に入学者を希望した受験者の動向を資料1に示した。この表からわかるように、年により増減はあるが、平均として本学部収容定員の8倍から10倍程度の人数の一般入試受験者を確保できていることがわかる。今回、物理学科、化学科、生命科学科の入学定員の変更を行うが、本学部全体の収容定員数は、これまでの210名から変更はない。このため、従来から行っている学生確保のための取り組みから大きな変更は必要ないと考える。また、これまでの受験者数の動向から、本学部に入学者を希望した学生は、本学部への入学を第1希望としている指定校推薦、公募制推薦で毎年70名から80名で、収容定員210名のうち3割から4割を占めている。このため、一般入試では受験者のうちの約1割を合格とすることで、収容定員数と本学

部での教育に必要な学力の両方を確保できている。また、各学科の入学定員変更に伴う入学納付金の変更はなく、学生の確保には影響はない。以上により、変更後の各学科の入学定員及び総収容定員に対する学生の確保は十分に行えると考える。

## ②学生確保に向けた具体的な取組み状況

本学部では毎年オープンキャンパスを実施しており、学科説明や模擬講義の他に理学部の施設見学会も行うことで、本学部の高い研究力を実際に体験させ、入学希望者の確保の取組みを行っている。この施設見学会には、毎回全国の高校から100名以上の学生が参加し、見学会に参加した学生は高い割合で本学部に入學している。また、教育内容、研究内容と成果をまとめた理学部パンフレットを毎年作成し、また2012年には、日経BPコンサルティング社より日経BPムック「学習院大学 理学部で謎を解く」を発行し、それぞれオープンキャンパス等で配布している。日経BPムック「学習院大学 理学部で謎を解く」では全国書店での販売を通して本学部広報の展開も行い、学生確保の取組みの一部を担っている。さらに2009年に開設した生命科学科では、生命科学シンポジウムを豊島区の後援により、開設以来毎年開催しており、毎回100人以上の聴衆を集めている。このシンポジウムの開催については、近隣の高校だけでなく全国の高校、大学や研究機関に案内を送付しており、本学部および生命科学科に関する活発な広報活動を行っている。過去5年間に開催してきたシンポジウム、講演会の内容は資料2のとおりである。(肩書きは登壇当時のものとなっている)

以上により、本学部の各学科の入学定員を物理学科48名、化学科54名、数学科60名、生命科学科48名、収容定員を210名とした設定に対して、収容定員数を確保するための取組みは十分にされていると考える。

## (2) 人材需要の動向等社会の養成

### ①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

本学部では、物事の根本を論理的・実証的に分析・考察する能力、その結果を総合し実地に活かす技能、考えや知識を他人に的確に伝える技術を備えた人材を養成し社会に送り出すことを目的としている。そのため、数学、物理学、化学、生命科学という現代科学の基盤をなす分野において、応用のための知識ではなくどのような局面にも対応できる真の基礎力を身につけてもらうために、時間と手間をかけた少人数制の教育を実践している。また、研究においては、教育効果・

社会との関わりに最大限配慮しつつ、科学の発展に本質的な形で寄与することを目指している。

## ②社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

文部科学省による平成 26 年度と平成 27 年度の国公立大学入学者選抜学部系統別志願状況によれば、平成 26 年度の国公立大学の理工系志願倍率は 4.5 倍、平成 27 年度では 4.4 倍である。また、日本私立学校振興・共済事業団による平成 26 年度と平成 27 年度の私立大学の学部系統別の動向によれば平成 26 年度の理・工学系での志願者倍率は 11.0 倍、平成 27 年度では 11.11 倍である。主な学部別の志願者・入学者動向によると私立大学理学部の入学者定員に対する志願者数比は、平成 26 年度は 51,870 人/4,056 人で 12.8 倍、平成 27 年度は 47,664 人/4,056 人で 11.8 倍となっている。このように、理工系学部の志願倍率が高いことは、社会における理工系学部出身者の需要が多いためである。また、私立大学の理学部においては、さらに志願倍率が高くなっており私立大学理学部での教育に対する期待の表れと言える。

かねてより、本学部では、資料 3 のとおり、企業で活躍する人材や中・高等学校教員も多数輩出しており、また、大学院へ進学した後研究者として活躍する者もいることから、本学部での教育が社会での人材需要に応じていることを裏付けている。よって、今回の学則改正は、社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであるといえる。

学生の確保の見通し等を記載した書類に関する資料

資料 1・・・過去 5 年間の学習院大学理学部の受験者動向

資料 2・・・過去 5 年間の生命科学シンポジウムの講演内容

資料 3・・・理学部進路一覧